

# 西東京市 図書館だより

平成24年(2012年) 7月1日

第46号

## 中央図書館

西東京市南町5-6-11  
042-465-0823

## 保谷駅前図書館

西東京市東町3-14-30  
042-421-3060

## 芝久保図書館

西東京市芝久保町5-4-48  
042-465-9825

## 谷戸図書館

西東京市谷戸町1-17-2  
042-421-4545

## 柳沢図書館

西東京市柳沢1-15-1  
042-464-8240

## ひばりが丘図書館

西東京市ひばりが丘1-2-1  
042-424-0264

編集・発行:西東京市図書館

ホームページアドレス <http://www.library.city.nishitokyo.lg.jp>



谷戸第二小三年

### だれもが安心して 利用できる図書館

図書館には、毎日、大勢の方が来館されます。赤ちゃんを抱っこした若い夫婦や学生のグループ、勤め帰りのサラリーマン、高齢者の方等々、様々なみなさんが、安心して利用できなければいけません。七つの図書館のうち四館は、昭和五十年代に建設されたものですが、開館当初から開架室は利用者のけが防止のため、段差を作らないようにしています。また、書架を床に固定するなど、地震による転倒防止の処置をしています。

中央図書館・保谷駅前図書館・柳沢図書館・ひばりが丘図書館の四館は駅付近にあり、平日は午後八時まで開館しているので利便性がよく、多くの方に利用されています。同時に、事故が起きる可能性も高くなっています。書架の配置を工夫し死角を作らない、カーブミラーを取り付ける、館内を頻繁に巡回する、ポスターで注意喚起をするなどしています。この四館には、防犯カメラを設置して対応しています。カメラに録画された映像は利用者の個人情報ですので、「西東京市個人情報保護条例」及び「西東京市公民館及び西東京市図書館防犯カメラの運用に関する要綱」に基づいて運用されます。

図書館はだれでも自由に出入りして、資料を利用することができる施設です。小学生が一人でも来館し安心して利用できる施設であり続けるために、安全対策を行い、危機管理にしっかりと取り組んでいきたいと考えています。これからも、図書館を利用する人の快適な環境を整備してまいります。

★声の広報をお届けしています。

お知り合いの方でご希望の方がいらっしゃいましたら  
谷戸図書館(☎421-4545)へお問い合わせを



受講生が仕立てた作品の一部  
中を開くと原文、解説文、解説付きもあります。

東日本大震災で壊滅的な被害を受けた地域の一つ、岩手県陸前高田市で、震災後一年が経過しているものの、図書館資料の一部が津波による流出を免れ残存していることがわかり、市教育委員会の要請に基づき、岩手県立図書館と日本図書館協会、岩手五大学きずなプロジェクトが協力して郷土資料レスキュー活動を行う

### 陸前高田市立図書館 郷土資料救出(レスキュー) 活動報告

谷戸図書館 中川恭一

第一次の活動は、去る三月十七日から三日間、延べ約五十名が参加して行われました。

#### 第一次レスキュー活動

陸前高田市立図書館は館長以下六名の職員全員が、死亡もしくは行方不明です。二階建ての図書館は、窓枠と周囲の壁ごと水圧でもぎ取られ、津波の脅威をこれでもかというつめあとを残してかろうじて建っています。図書館に隣接し避難所に指定されていた体育館は百余名の命が奪われた場所で、献花黙とうを捧げ、図



はがせるかどうかは、やってみないと…

第一次の活動では約四百点の資料

ことが決まりました。復元の可能性がある資料を緊急に保全し、修復または復元などの適切な方法を検討することで、地域文化の継承に必要な資料の散逸・滅失を防ぐことを目的としています。私もボランティアの一人として参加しました。



被災した陸前高田市立図書館での作業(裏手より)

書館人として、この場にいることの意味をかみしめながらの作業でした。津波で散乱していた資料は、自衛隊員によって移動図書館の車庫に保管されていました。その中から、保全が必要な資料を選別し、表紙など表側の汚れを落としてリストを作成した後、箱に詰め、不要な資料は車庫に戻します。山積みになった資料を掘り崩して中へ進むにつれ、湿った状態になり、黒いカビが小口や表紙に生え、砂まみれで、表紙にも潮泥の塊がこびりついていました。ボランティアは皆、タイベックスの作業着や防塵マスク、二重の手袋、不織布キャップ、防塵メガネを用意しての作業。昼食までは水も飲めずトイレもなく汗だくの作業でしたが、命あるものを発掘するのだという思いに突き動かされて作業しました。

## 報告

### 大人のための連続講座 「寺子屋式古文書手習い」 かな読みに始まり、冊子を読み上げるまで」

#### 「寺子屋式」で学ぶ

地域・行政資料サービスでは、豊かな知識や経験をお持ちの西東京市在住の方を講師に招いた講座・講演会を実施しています。

東日本大震災から一年を迎えた昨年度は、様々な視点から震災を考える機会となるよう、「災害と民俗学」(講師石井正己氏・東京学芸大学教授)と「幕末江戸の災害」(火薬工場爆発と直下型大地震)(講師吉田豊氏・文京学院大学生涯学習センター講師)という二つの講演会を実施しました。過去の人々がどのように災害と向き合い、暮らしを守り営んできたのか、記録から歴史を振り返ることは、現代を生きる私たちに様々な示唆を与えてくれました。

さらに、図書館としては初めての試みである連続講座も実施しました。二月から三月にかけて全五回で行った「大人のための連続講座・寺子屋式古文書手習い」かな読みに始まり、冊子を読み上げるまで」です。過去の記録、古文書が読めるようになりたいという古文書入門講座開催を希望する声は、これまでの講演会アンケートで寄せられていました。



基本のかな(テキストの一部)

古文書とは「過去の時代の史料となる古い文書。差出人・受取人・用件・日付などを備えた公文書・私文書がいい、古記録と共に史料として最も重要」と『広辞苑』にあります。講師の吉田豊氏は、身近に古文書のある環境の中で育ち、独学で習得した後、「生涯学習一級インストラクター・古文書」の資格を得た方で、古文書学習に関する著書も執筆されています。

吉田氏は、古文書入門の前段として、寺子屋式の初等教育課程に準じて学ぶ方法を提案しています。寺子

屋では、まず平仮名変体仮名で、講師は「江戸かな」と名づけています。の読み書きから始まり、次に草書体の漢字に進みます。

今回は、「基本となる八つのかなをしつかり覚えることから、江戸の庶民向けの本が読めるようになるまで」という目標を設定した初心者向けの連続講座でした。

反響は大きく、定員十五名のところ六十五名の方から申し込みがありました。しかし、講師一人で十分な対応ができる人数には限界があります。一人でも多くの方に参加していただきたいと考え、抽選で、男性十四名、女性十名の計二十四名の受講者を決定しました。

平均年齢六十九歳、二十一歳から八十七歳までの幅広い年齢層のクラスになりました。同時に、初心者を対象とした講座ではありませんでしたが、様々なレベルの方が参加されたので、それに併せて難易度が異なるテキストを選ぶことができました。

テキストは講師ご自身が持ち前の史料で、①明治期の教科書②俗謡③往来物④寺社縁起⑤章双紙⑥百人一首⑦実録物、そして田無村名主下田家文書の公用分例略記も使用しました。

初日は、最も平易なテキストを選び、基本の八つのかなを何度も書く練習と、全員で声を出して読むことから始めました。使用頻度の高い八



最終回、講師を囲んで

つのかなを押さえることで、その後を推測しつつ読めるという気持ちになり、さらに次の段階へと興味が広がり楽しくなってくる、おもしろい勉強法だと感じました。

#### 手作りの資料

テキストは解説した後、「和綴じ」にして冊子に仕立てました。苦労しつつ装丁にもこだわり世界にたった一冊の資料を作り上げる達成感は格別のものがあるでしょう。地域・行政資料室保存資料として公開しています。

#### 自主グループ誕生

二十四名の内、二十二名が無事卒業されました。その中から有志による自主グループが結成されて、講師

図書館とのつきあいは、半世紀を優に過ぎた。戦後まもなく、北関東のある都市に移り住んだが、中学校の近くに市立図書館があり、放課後よく利用した。そこは静謐な空間であった。以来、図書館は私にとつて、アクセスしやすい身近な存在となった。図書館は、歴史、文学等を通じて、社会や人間を探る開かれた窓の役目を果たしてくれた知識の宝庫であった。

図書館は自治体の文化の顔でもあり、それに触れるのは楽しい。現在、私は、西東京市のほか、いくつかの近隣の自治体(市、区)の図書館に登録している。本市にない本はネットで調べてこの中から借りることにしている。

なお本市は、貸出限度数が三十冊と群を抜いて多い(通常は約八冊)。また四月からは、夜間の開館時間も延長し、祝日も開館されることになったのはありがたい。私は、数年前にたくさんの古本の処分に困った経験をして以来、本は原則として借りて読むことにしている。本を読むきっかけは様々



## わたしと図書館

西川義昌

だが、新聞の広告又は書店で見たことが多い。ホームページで本の有無を調べ、なければ購入の予約もできる。私も何度かこれで新着本を読むことができた。ちなみに、本市の図書館の図書購入費は、人口が同レベルの全国の自治体と比べても、遜色がない。

読書の効用として、目から鱗が落ちるといふ発見をすることがまれにある。長く疑問に思っていたことが氷解し、霧が晴れ、望外の喜びをもつ。故に、読書への未知の旅は終わりになく続いていく。

かつて、アナン元国連事務総長が、二人の老人の死は、図書館が一つなくなることだ」と国連の会議で述べたことを新聞で読んだ。老人の知的財産(知識、経験の蓄積)を図書館に例えたのだが、忘れ難い言葉として記憶している。今日の高齢社会において、図書館には「老人」たちの様々なニーズに、より一層応えていただけるとありがたい。そして幅広い世代の市民の目線に立ち、読書環境のさらなる充実に努めて欲しい。

を救出できました。郷土資料などの代替困難な資料ばかりで、これが、元の書架に並ぶ日が来ることを夢見て作業を終えました。

### 第二次レスキュー活動

「救出」資料の修復、復元を目的とした第二次の活動は、技術指導に国立国会図書館司書、都立中央図書館司書も参加して、場所を岩手県立博物館に移し、六月三日から五日まで実施されました。

対象となったのは、「救出」された資料のうち、県立図書館や近隣自治体で所蔵していたものを除いた二百三十点です。延べ五十名が参加しました。

風通しのよい場所で資料を再度乾燥させ、スポンジ、たわし、刷毛、歯ブラシ、ヘラなどを駆使して一ページごとに砂泥をこそげ落とし、ページをはがし、カビの生えたページには消毒液を吹き付け乾燥させるドライクリーニングを実施。症状別に三段階に分類し、資料ごとに複製したものを簡易製本して利用できる形態にしました。原本は冷凍保存し、一部は国立国会図書館に送られて専門家のレスキューが行われる予定です。

### 7月より、ひばりが丘図書館駐輪場にサイクルゲートを設置します。

ひばりが丘図書館は、ひばりヶ丘

駅からすぐという便利な立地条件から駐輪場の利用が非常に多く、図書館を利用しない方の使用が後を絶ちません。そこで、図書館を利用する方が使用しやすい駐輪場に整えるため、サイクルゲートを設置することにしました。

図書館ご利用後、警備員もしくは、カウンターで「カード」を受け取ってください。「カード」を機械に通すとゲートが解除され、駐輪場から出ることが出来ます。ご理解とご協力をお願いいたします。

### 6月より、中央・柳沢・ひばりが丘図書館に防犯カメラを設置しました。

設置にあたっては、「西東京市公民館及び西東京市図書館防犯カメラの運用に関する要綱」に基づき、適切な管理運用を行い、目的以外の利用はいたしません。ご理解とご協力をお願いいたします。



全館の特別整理休館が終わり、保谷駅前・柳沢・ひばりが丘図書館に予約棚コーナーが設置されました。私たち職員は、人対人だからこそ感じ取れる細やかな状況判断を心がけ、来館した方が心地よく利用できる空間を提供していきたいと考えています。暑さとともに開館した館内には活気があふれています。